



国見山中に残る 「善光寺さん」

～北ノ川内・北岳地区の石造物～

過日、町内北ノ川内・北岳地区に住む古川守さんが、「地域の12軒で代々祀ってきた石造の“善光寺さん”があるが、その謂れがよくわからないので、調べる手立てがないか」と来館されました。

この石造物に関しては、以前、西有田町郷土研究会で調査され、その後昭和51年6月に『ふるさと西有田町 石の文化』という書籍にまとめて出版されています。それによれば、北岳の集落から500mほど登った所の突出した岩に「信濃国善光寺 東堂高十丈 二重屋根 三門表十五間 仁王門高三丈九尺二寸」の文字が刻まれていることを確認されています。

この地区では、「享保（1716～1736）のころ、北岳の水田五町歩ほどを開墾し、豊かな田が完成したので、そのお礼に福田奥衛門氏の祖先が善光寺に参詣し、その分霊をいただき、この磨崖に仏像と記録を刻まれた」と言い伝えられてきたそうです。

現在も毎年2月11日には、隣保班の全員が揃って感謝祭を催しているということです。ただ、仏像は元の場合から、下の方に移設されています。これは地区の人々がお参りしやすいようにと、道路や民家に近い現在の場所に移設されたということでした。

このほど、北ノ川内・北岳地区の方々は長野県の善光寺まで出向き、なぜ、有田の地に善光寺と刻んだ石造物があるのか尋ねられたそうです。寺側もその点に関してはわからないということでしたが、宝永4年（1707）の再建に際し、その資金確保のため善光寺別当が日本中を6年間にわたり巡行したということが各地に残る資料で確認されています。この肥前地区は「元禄17年（1704）6月17日、肥前佐賀浄土宗称念寺に着座。18日から24日まで開帳した」という記録が残っています。

北ノ川内・北岳地区の開墾と、この巡行開帳とは定期的にあまり差がありません。古川さんたちは、先に

書いたようにこの地区の人が長野まで出かけていき、秘仏を書き写した絵のようなものを頂いてきて彫ったのではないかと想像されていますが、その点もよく分かりません。

今回、北岳地区の方の要望を受け、九州地区の石造物の専門家である大石一久さん（長崎歴史文化博物館研究グループリーダー）に調査を依頼しました。

北岳の仏像は長野県にある善光寺の本尊で、現在は絶対秘仏としてその姿を見る事が叶わない、一光三尊阿弥陀如来像、別名善光寺式阿弥陀三尊像と大変よく似た形で石に彫られ、高さは35cmほど。

残念ながら今回の調査では、上方にある仏像の元の設置場所の岩には苔が密生し、前回の郷土研究会や北岳地区の皆さんが調査された事柄以上のことは解明できませんでした。今後、苔を丁寧に取り除き、拓本をとることで、製作年代が刻まれているかもしれないし、さらには仏像の一部を成分分析することで製作地が特定できるかもしれないということでした。

しかしながら、それ以上に、住民の方々が地域の歴史を大切に、さらには先祖の思いを確実に次世代へ伝えるために、今、分かる事を明らかにしておきたいという熱意が伝わってきましたし、今後の調査が期待されることです。（尾崎 葉子）

北岳の「善光寺さん」について、情報をお持ちの方は是非お知らせ下さい。

連絡先：古川守さん（090-3987-7638）



皿 季刊 山

No.95

秋
2012

有田町歴史民俗資料館・館報



●お知らせ●

平成24年度企画展

「歩こう隊の記録と伊能測量隊200年展」開催



今年の企画展は、平成21年から始めた「150年前の有田皿山ば 歩こう隊」(以後「歩こう隊」と略)の記録を紹介するとともに、文化9年(1812)、あの伊能忠敬を中心とした伊能測量隊が伊万里・有田地区を測量してから200年となり、それを記念した内容を計画しています。

今年で3年目を迎え、最終年度となった「歩こう隊」には多くの町民の皆さんに参加していただきました。その成果は「新有田郷図」や「覚書 其壺、其式」などにまとめましたが、さらに町内各小中学校や有田工業高校、有田窯業大学校などにパネル展示も行いました。それらと、当館に収蔵している旅日記や名所を記した記録等を交えて展示します。

また、今回新たな取り組みとして、伊万里市歴史民俗資料館と伊万里市観光ボランティアガイドの会、アリタ・ガイド・クラブと当館の共催という形での展示及び企画を行います。これもまた、地方の、小さな博物館施設同士の協働という形での取り組みであり、ひとつの試みでもあります。

■歩こう隊の記録

2年間にわたる有田地区内の踏査には、延べ600人余の町民の参加がありました。その多くの方々からは、「長年住んでいて初めて足を踏み入れた」とか、「こんな素敵な場所があったなんて」という発見の喜びの声が聞かれましたし、このふるさとの素晴らしさを、次世代を担う子どもたちにぜひ伝えていきたいという強い思いも伺いました。その成果をパネルを中心に展示します。

■旅・古地図等の記録資料

当館には「皿山雀」という享保13年(1728)に著された書物が収蔵されていますが、これは当時の有田の様子を、雀の姿を借りた作者が語っています。例えば、泉山の弁財天神社や陶山神社(当時は八幡宮)、ゆるぎ石のことなど、今も有田に残る風景をしのぶことができます。

また、江戸末期の旅日記や明治期の外国人記者が書いた新聞記事などは、有田内外の人々によって有田が紹介され、興味深いものです。

■伊能図

伊能忠敬を中心とした測量隊は、全国のほとんどを自分の足で歩いて測量しました。その歩数約4千万歩、なんと地球を一周する距離です。

九州地方の調査は一次、二次の2回にわたっていますが、伊万里津から有田への有田街道(現在の有田町山谷から曲川にかけての道)を調査したのは文化9年の九州第二次測量の時でした。

忠敬自身は伊万里津までは来たものの、そこで体調不良(腹痛)となり、実際にはこの街道の調査には参加しませんでした。しかし、測量隊の前触れの記録は「皿山代官旧日記覚書」にも記録されており、準備するものや宿の食事まで事細やかな指示が出されていることがわかります。

今年の企画展にさきがけ、伊万里津から有田・曲川までの「有田街道」を歩く会も開催します。11月の企画展のころは、館の周囲の紅葉も毎年見ごろとなります。多くの町民の方に観覧いただき、秋の1日、周囲の紅葉とともに楽しみください。

◆開催日時

平成24年11月1日(木)～11月30日(金)

◆開館時間：午前9時～午後4時30分

◆期間中無休 入館無料

◆場所：泉山 有田町歴史民俗資料館東館

◆関連イベント

①「伊万里津から有田街道を歩く」

日時：9月16日(日)

午前8時30分～午後3時(予定)

参加費：無料

募集人員：20名

②学芸員・ボランティアによる展示解説

日時：11月3日(土・祝)、11月23日(金・祝)
午後2時～

③夜間開館と周辺の紅葉ライトアップ

日時：11月23日(金・祝)、11月24日(土)
午後6時～8時

※ いずれも詳しい問い合わせは有田町歴史民俗資料館(43-2678)まで

380年前の
有田焼発見！

150年前の有田皿山ば 歩こう隊

「歴史の川ざらい〜ベンジャラを探そう」開催



アリタ・ガイド・クラブとの協働で始まった「150年前の有田皿山ば 歩こう隊」事業ですが、このほど、子どもたちに有田皿山の歴史を体感してもらおうと、「歴史の川ざらい」を実施しました。

なぜ、川なのか。それは有田皿山の谷間に一本の川があり、江戸時代から焼物の失敗作や窯で使用し、壊れたりいらなくなったりした窯道具等を川に捨てていた歴史があり、また、川の中にはまだ橋がない時代、橋の代わりに川底に大きな石を置いてそこを渡っていた、いわゆるぴょんぴょん橋が今も昔のまま残っています。そういう歴史を物語るものを実際に渡ったり、川の中から見上げることで見えてくる歴史も感じてもらおうと、今回の「歴史の川ざらい」を計画したものです。

8月1日（水）午後1時30分に、台風の風が時折強く吹く中、真夏の日差しのもと、有田町東出張所に集まった親子や飛び入りの一般の方も含めて総勢22人は、岩谷川内の下の番所近くから川に入りました。

参加者は川底から江戸時代、1640～50年代ごろの天狗谷窯で焼成された可能性のある陶片や、17世紀中ごろからの輸出品であった「芙蓉手皿」の破片、生活用具であった武雄系の陶器、あるいは明治以降に盛んに製造された碁子など、さまざまな陶磁器片・ベンジャラを採集し、大橋康二ガイド・クラブ理事長や当館の村上・野上両学芸員に時代や元の形について質問せぬ。

特筆すべきものに、有田小学校1年生の森近成朗君が拾った碁子（電気の絶縁装置のひとつ）があり、内側に染付で「田代製」という文字が入っていました。有田で陶磁器製の碁子を製造したのは香蘭社だけだと思われる方も多いかと思いますが、実はほかにも平林伊平や田代紋左衛門なども製造していました。特に、田代家は明治20年ごろの資料が残っていて、そこには稗古場窯や白焼窯、谷窯などで盛んに碁子を焼成し、それを上海へ輸出していたことがわかっています。この碁子はそれを証明する貴重なものとなりました。

途中、陶片探しを中断して、有田の昔からある遊びの一つ、ハマ投げに興じる子や、網とバケツ持参組は魚をとることに一生懸命な子も。

2回目の8月4日（土）は場所を変えて開催しました。

両日ともに、午後からの開催ということで熱中症が危ぶまれましたが、子どもたちの熱心な取り組みのもとで無事終える事ができました。

有田の歴史の中で、焼成時に失敗したものなどは物原という、登り窯の周辺に捨てていたと同時に、窯道具などを中心に川へ捨てたりもしていました。今も、陶片よりは窯道具（トチンやハマなど）が多く散在していることから、そのことがよくわかります。

今回採集したものは、有田焼の歴史を物語る貴重な資料でもありますが、参加した子どもたちは持ち帰ることはできませんでしたが、採集者や拾った小さな陶片が製作された時代や、形、文様等を記録し、秋の企画展「歩こう隊の記録展」で展示することになっていますので、ご期待ください。



8月1日 岩谷川内・めがね橋付近



8月4日 赤絵町付近



採集した陶片をカメラに記録



今回採集した
陶片



天狗谷窯跡出土
の類似品
(柑子口瓶)

第12回有田の町屋模型作り教室開催と 有工生インターンシップ受入

今年で12回目となった「有田の町屋模型作り教室」ですが、定員10名のところ、16名の参加申し込みがあり、急きょ場所を変更して、生涯学習センターで開催しました。

一日目の8月20日(月)、町内3小学校からの参加者は、担当者から町並み保存について説明を聞き、作業開始。今回は昨年と違い、スケールを小さくし、町並みらしさを出せるようにしました。2日目は有田工業高校2年生の弘川将君、神田敦也君の両名が、インターンシップで加わり、後輩たちにカッターの使い方などを指導しました。2日間で、それぞれ特徴ある町並みが完成しました。

今回の参加者は次のとおりです。

《有田小学校》

近藤梓さん(5) 武市京子さん(5)
寺内明日香さん(6)

《有田中部小学校》

楠本浩平くん(5) 後藤敬太くん(5)
篠原颯太くん(5) 廣大樹くん(5)
村上綾香さん(5) 村上鈴佳さん(5)
村上大和くん(5) 森啓志郎くん(5)
多々良希保さん(6) 西山太一くん(6)
森龍一郎くん(6)

《大山小学校》

藤沙由里さん(5) 梅崎一葉さん(6)

計16名()内は学年



黙々と作業を進める子どもたち



インターンシップの有工生による指導



出来上がりました！

次世代への伝言

～タイムカプセルの開封時期～

当館の西側には泉山磁石場があります。その一角に「先人陶工之碑」があります。これは、有田焼創業350年の折に計画され、その後、昭和57年に完成しました。実は碑の前の広場には2つのタイムカプセルが埋設されています。

埋設されていることは以前から聞いていましたが、いつ、このカプセルを開けるのかということはいくつもわかりませんでした。過日、有田商工会議所よりその件を尋ねられ、改めて資料を探したところ、昭和56年8月31日、商工会議所で「先人陶工の碑タイムカプセル委員会」の発会式が開催、翌57年4月14日に「先人陶工之碑」は落成していたことがわかりました。

会議所からは資料の確認後、2つのタイムカプセルが埋設され、碑に向って右側に当時の小中学校生の作文などが、左側には当時の有田町を紹介した資料等が入れられていると連絡がありました。

そのタイムカプセルを開く時期ですが、子どもたちの分は創業400年(2016)に、有田町の分は500年(2116)となっているそうです。果たして、このことが100年後の人々に確実に伝わるかどうか心もとないのですが、折に触れ、書き残すことで伝わるものと思います。

果たして、104年後の未来の有田に生きる人々にとって、先人の暮しや思いがどのように伝わるのか、興味のあるところです。



※訂正

前号(94号)の中で、4頁目の「加藤仙乗住職」とあるのは「加藤元章住職」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

季刊『皿山』

通巻95号(平成24年9月1日)

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1

☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL: <http://rekishi.town.arita.saga.jp>